

明君（松山酒造）

1923 年に三重県名張市で創業した松山酒造は、1958 年現在の月桂冠である大倉酒造グループの一員となった。伏見に移転するまで、松山酒造は年間 216 キロリットルの日本酒を生産していた。

1959 年、松山酒造は伏見北部にある大倉酒造の北蔵に全ての生産工程を移転した。その後 5 年間、ブランド名「明君」の下で松山酒造の生産量は順次増大し、年間 900 キロリットルに達するまでになった。明君という名前は、「万民のため明るい世をつくらんとする賢明なる君主を讃える」と大まかに訳される。

1967 年、同社は再び大倉酒造の大賞蔵に移転した。今日まで、同社は大賞蔵の建物内で醸造を行い、伝統的な酒造りを行っている。大賞蔵の建物は、島津藩の伏見宿の敷地に建てられている。坂本龍馬（1836～1867）は、1866 年、寺田屋における 2 回目の襲撃事件で幕府の捕手からこの地に避難した。